

07年中、全国の交通事故による死者数は5744人で、1953年以来54年ぶりに5000人台になりました。戦後、死亡事故（交通事故発生から24時間以内に死亡した人数）が最も

多かったのは1970年の

## 高齢者死亡事故防止

16765人ですから、約3分の1に減少したことになります。死者数を年齢階層別にみると、65歳以上の高齢者が約半数（47.5%）を占めて最も多く、次いで、50歳

代と若者（16〜24歳）がそれぞれ11.7%を占めていますので、高齢者の死亡事故がいかに多いか分かります。事故の原因は、「走行車両の直前後横断」や「横断歩道外

横断」「斜め横断」などの横断違反が多く、

交通ルールを守っていないことが死亡事故につながっています。交通ルールを守り、事故にあわないように注意しましょう。



交通安全の口メモ